



## 12月のコラム

### ニューノーマルにそれぞれの活路を～

今年は、日常生活や仕事に様々な制限がつき、自粛ムードの中で活気からは、ほど遠い一年になりましたね。

先日、あるスーパーが「買い物かごの自動除菌装置」を設置したという記事を見ました。買い物かごを台車ごと入れると、かごが一つずつ降りて紫外線で除菌するというもの。「ジョキンザウルス」という面白いネーミングは、菌をパクパク食べる恐竜のイメージで決めたとのこと。従業員さんが、手作業で拭いておられるのを見て、本当に大変とっていたので嬉しい開発です。

振り返ればこの一年、ごく身近で、今までなかった新しい商品がたくさん生まれましたよね。レストランで、手指の消毒液が自動噴射で出てくるスタイリッシュな装置を初めて見たときは、ちょっと感動しました。電車の吊り輪を直接持たないための携帯用のフックやドアオープナー、非接触で操作できるディスプレイ、おしゃれマスクやマスクケース・・・他にもいっぱいあると思うのですが、こんな状況にならなかつたらきっと開発されなかったもの。「必要は発明の母」とは良く言ったものです。

ZOOM 等のオンラインシステムの利用、キャッシュレス決済の普及もこの一年で一気に進みました。接客は、対面であるものと思っていましたが、お店に行かなくても店員さんとスマホ等で繋がって、リアル映像と説明を聞きながら店内を回ることができるというサービスにも驚き。最近、量販店に行っても専門知識のある店員さんがいなくて聞けないことが多いので、こっちの方がいいかもと思ったりします。

職種的に無理と思っていた製造業の現場でもテレワークへの挑戦が進んでいるようです。医療の世界でも、遠隔操作のロボットで手術ができる時代です。ひっ迫している医療現場の負担を軽減できるような開発・支援対策が進むよう願います。

ニューノーマルに対応するため新しい発想が求められました。人は、考えればいくらでも知恵を絞りだして創造し、技術も進化させることができるのだなあと感じた年でもありました。

コロナ禍は、まだ続くでしょう。この一年の間に学んだことをステップにして、それぞれの活路を見出していきたいものです。

2020年12月 水田かほる